

学術論文 2012～2015 （有審査論文を掲載）

土田義郎 研究員・教授

2015 年

1. 土田義郎：“避難行動を促す効果的な防災放送のための訓練システムに関する基礎的検討”，
日本建築学会技術報告集（投稿中）

避難行動を誘起させる防災放送とはどのようなものか。文体、間の有無、声の調子、男声・女声といったものをパラメータとして実験的に検証し、訓練システムについて提案するものである。

2014 年

なし

2013 年

なし

2012 年

1. 土田義郎：
“主観的類似度評定を用いた認知構造の同定手法の提案”，
日本建築学会技術報告集，18(38), pp. 225 - 228, 2012.

この論文は PAC 分析を発展させ、より幅広く認知構造を抽出できるように拡張した手法に関する論文である。統計的な操作も用いないため、理論的裏付けも簡明となる。質的分析において、有効性を発揮するものと考えられる。

著書

2012 年

1. 土田義郎 (共著)；

“つなぐ 環境デザインがわかる”，朝倉書店，2012.

環境デザインは、非常に幅広い概念である。災害においても環境デザインの良し悪しによって生死を分けることもある。デザインの視点から建築内外の音環境設計について論考した。

2011 年

1. 土田義郎 (共著)；

“図解室内設計基礎（中国語版）”，中国建築工業出版社，2011.

“インテリア計画の知識”を中国において翻訳出版したものである。

2008 年

1. 土田義郎(共著);

“都市・建築の感性デザイン工学”, 朝倉書店, 2008.

感性工学はすでに海外でも広く知られた概念である。これを都市や建築デザインにおける応用例とともに示した。

2 土田義郎(共著);

“インテリア計画の知識”, 彰国社, 2008.

住居系学科において用いられる一般的教科書として書かれたものである。環境工学、および設備について執筆担当した。

特許 2012～2015

なし

国際会議及びシンポジウム等 2012～2015

2014 年

1. Yoshio Tsuchida;

“Sound education in Japan”, 7th Forum Acusticum 2014 Krakow, ISSN number: 2221-3767 for CD

ISBN number: 987-83-61402-28-2 for Book of Abstract, 7-12.09.2014.

サウンドエデュケーションの意義や手法を整理し、日本におけるサウンドエデュケーションの現状を報告した。防災もマニュアルがあるだけでは有効にはならない。教育という視点は様々なシステムを生かすうえで必要になるものであり、本論考はその基礎的な考え方を示すものである。

2012 年

1. 出村俊郎, 円井基史, 土田義郎:

“「わび・さび」の空間デザイン –PAC 分析による認知構造の把握–”, Design シンポジウム 2012 (京都), pp.127 - 131, 2012.

本研究は日本人の特徴的な美意識である「わび・さび」に着目し、これを PAC 分析という面接による深層心理の質的分析を測る手法によって解明を試みたものである。人間の心の奥底に潜む心理を明らかにすることは、視覚・聴覚を活用した避難誘導のデザインに際しても有効である。

新聞・報道等 2012～2015

2014 年

1. 「音色軽やか 竹風鈴 宮津 ワークショップで制作」, 京都新聞 朝刊, 2014.3.2.

2. 「“水の都”金沢 散策いかが 河川・用水マップ試作」, 北陸中日新聞 朝刊, 2014.4.18. 他 3 件

3. 「淹つば あえてつくらず? 兼六園の茶室・夕顔亭」, 北國新聞 朝刊, 2014.5.19.

4. 「避難誘導 効果的な防災放送は」, 北國新聞 朝刊, 2014.6.27.
5. 「南海トラフ巨大災害 防災対策シンが開く」, 建設工業新聞 2014 年 9 月 30 日
6. 「スーパーニュース いしかわ再発見<金沢の用水散策>」, 石川テレビ, 2014.6.5.
(18 時 15 分～)

2013 年

1. 「金沢工大生ら障子紙で風鈴 広坂振興会に寄贈」, 北國新聞 朝刊, 2013.8.2. 他 5 件
2. 「(北窓) カメラキッズ音ではかる? 音でわかる!」, 北國新聞 朝刊, 2013.8.6.
3. 「かなざわ風鈴づくり 県内ニュース (17 時 30 分～)」, 石川テレビ, 2013.8.17.

講演会 2013～2015

2015 年

1. 土田義郎; 「大阪都心部におけるサイン環境調査報告 ①梅田地区調査」,
日本福祉のまちづくり学会 サイン環境特別研究委員会シンポジウム
「五感を活用したサイン環境デザインの可能性」, 28.3.2015. 【招待】

本講演では委員会において共同で調査を行った大阪駅周辺のサイン環境の総括的報告である。分かりやすいサインと誘導のためには、環境としてのデザインの他、教育的側面も相まって初めて広く社会に認知されるものであろうことを主張した。

2014 年

1. 土田義郎; 「大阪都心部にあるサインの役割とその課題 梅田地区のサイン環境と課題」,
日本福祉のまちづくり学会 サイン環境特別研究委員会公開研究会 (関西支部セミナー共催)
「大阪都心部のサイン環境からユニバーサルサインを考える」 9.6.2014. 【招待】

本講演では委員会において共同で調査を行った大阪駅周辺のサイン環境に関して報告した。ルート内の迷いやすい点を示すことで、一般的な分かりやすさに関する知見を示した。

2. 土田義郎;
「防災放送の訓練システムに関する基礎的検討」, 日本建築学会大会学術講演会梗概集 (防火),
pp. 435-436, 30.8.2013.

避難行動を誘起させる防災放送とはどのようなものか。文体、間の有無、声の調子、男声・女声といったものをパラメータとして実験的に検証した。

3. 土田義郎;
「音環境とサイン」, 日本福祉のまちづくり学会 第 17 回全国大会 (広島) 研究討論会
『「わかりやすさ」のユニバーサルデザイン—心地良い環境の創造にむけて』, 23.8.2014. 【招待】
サイン設計においては音環境も重要な要件となる。サインと音の関係について一般化し、分かりやすい音のサインについて論じた。

4. 土田義郎;

「超巨大災害発生時の避難勧告・指示の効果的情報伝達対策」,
金沢工業大学 地域防災環境科学研究所「シンポジウム 南海トラフ巨大地震の防災対策について」
pp.32-33, 27.9.2014. 【招待】

防災放送における情報の伝達過程について論じたものである。音源自体の持つ特性と伝搬過程の特性が、音声の聞き取りやすさや、行動の誘起につながることを示した。